

公社は、きたる3月18日 職場における安全衛生へ 仕組みとして運用してい
午前10時から同公社秋葉 の配慮は、CSR(企業 く労働安全衛生マネジメ
原庁舎において経営研修 の社会責任)の面から必 ントシステムの概要をわ
「基礎から学ぶ!労働安 須事項とし て求められ
全衛生マネジメントシス テム」を開催、現在参加 ている。
者を募集している。 同講座で
昨今、企業として労働 は安全衛生 に対する社
災害・事故への安全対策 会的要請、労働安全衛生 かりやすく説明する。
に偏ることなく、メンタ マネジメントシステム 講座内容・申込み方法
ルヘルスも含めた健康・ (OHSMS)の国内外 はつぎの通り。

労働安全衛生マネジ

中小企業 振興公社 経営研修を開催

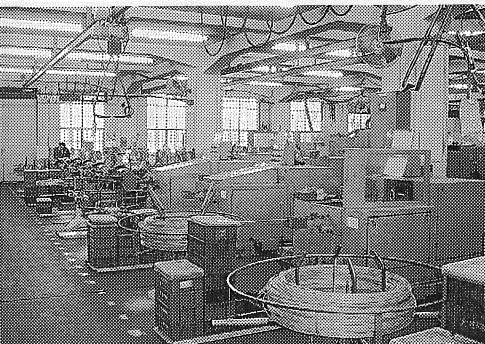
(企業の社会責任)の動 向、法令遵守。2、労働 安全衛生マネジメントシ ステムの国 定員30名(先着順)、 受講料4000円。
概要、メリ ット・デメ P <http://www.tokyo-osta.or.jp>またはTE L03-3251178 83FA X03-325 1-78888
要求事項の解説、ISO との関連。4、リスクア

創業70周年迎え躍進へ

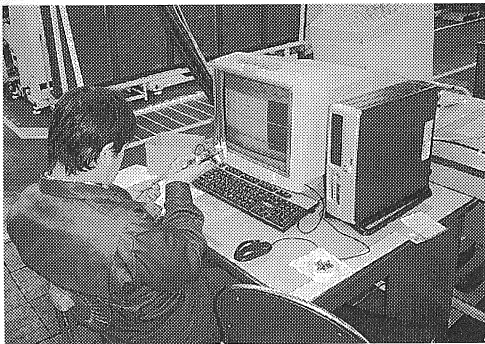
品質管理・保証に注力

桂川精螺 製作所 工程でつくり込む

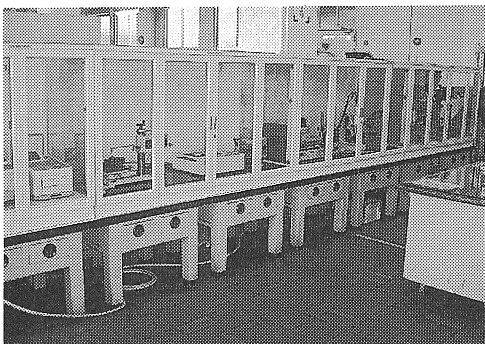
ねじと特殊部品の総合メーカー、(株)桂川精螺製作所(本社・東京都大田区、石井昌幸社長)は、本年度創業70周年の節目を迎え、さらなる企業発展に邁進している。そのために品質第一を掲げ、品質管理、品質保証のレベルアップに日々注力している。



ヘッダーライン



QC PRO CSで工程内検査



検査機器一式

同件を改善

自動車、電機等のモノづくりにては、「良い部品」であることは当然として、さらに潜在的な要素として「良い設計」「良い品質管理」であること、それらがトータルに問われることになる。

品質レベルとして「良い部品」を供給できているとカテゴリーされる同社。材料や機械、加工方法、作業員、いわゆる4Mと称されるものが高度化してきた昨今、最も大きなネックと感じていたのは「人が安定し

ないこと」という。解決には教育しかないが、良質な製品を供給するなら、品質管理や品質保証を合わせて考えるべきと、その重要性を早くから認識してきた。「品質は現場、工程でつくれるもの」と言われ、同社も試み続けてきたが、そのために最も重要なことは正確な情報を積み重ねることである。つまり品質の記録、履歴が最も重要なのである。

以前はヘッダーやトリミング、転造等の各工程で検査票をビニール袋に入れて流していく方法だったが、結局は最後に完成したものを再チェックしていたので人や時間、紙などのエネルギーを膨大に費やしていた。この課題は光通信網の発達で解消された。各工場のデータをタイムリーに統合管理できるようベクトリックス(株)に依頼し、本格的なネットワークシステムのQC PRO CS(クライアント・QC管理システム)の開発で応え

当該ねじは、鉄骨造建築物の床として多量に用いられる合成スラブ構造の、デッキプレートと梁の接合用として、此までの「焼き抜き溶接」や「発射式打ち込み鉚」に変わる接合方法の開発を大手セネコンより要請され、長年のドリルねじ製造経験を生かし、独特の切り刃形状によりドリルタイム(削孔時間)の短縮と、首下部に太軸部を設け、高所での電

視では確実に出来ず、性が問われ「発射式打作業も所定か作業がで鉚の発射時

タッピン組込ねじ各種